

令和5年度 学校評価 自己評価書 (2学期)

1 学校の重点目標

- 安心安全に過ごせる学校 =常に「危機意識」をもって=
- 確かな学力をつける学校 =「授業」で力をつける=
- 強く生き抜く力をつける学校 =5年後、10年後を見通して=

2 課題と改善策 ※評価の指標は4段階(1, 2, 3, 4)の平均 ( )内は前学期からの増減

	評価項目	評価	評価結果と改善方策
確かな学力の育成	・目標を明確にした授業を実践したか。	3.1(+0.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の発達段階に応じた聞く態度を育成する。</li> <li>・一人調べ、ペア、グループ、全体と、授業形態を工夫し、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を実践する。</li> <li>・子どもの学ぶ意欲を継続するための、指導過程を工夫改善する。</li> <li>・ラスト10分の時間確保を通して、学習内容の定着を図る。</li> <li>・タブレットの効果的活用を図る。</li> <li>・個別指導の時間を確保する。</li> <li>・読書冊数の学級差をなくすよう、啓発に努める。</li> </ul>
	・見通しをもたせた授業を実践したか。	3.0(+0.1)	
	・考えを広げる授業を実践したか。	2.8(+0.2)	
	・音読を取り入れた授業を実践したか。	2.9(+0.1)	
	・探究的な学習を取り入れた授業を実践したか。	2.8(+0.3)	
	・五感を通した学びを取り入れた授業を実践したか。	2.8(+0.1)	
	・タブレット等のICTを活用した授業を実践したか。	3.0(+0.2)	
	・ラスト10分で定着を図る授業を実践したか。	2.9(+0.1)	
	・各種作品展等へ積極的に応募したか。	2.8(+0.2)	
・本に親しませる読書指導を実践したか。	2.8( 0)		
豊かな心の育成	・「あいさつ」(一事徹底)「くつそろえ」「はさみ運動」の改善を図る指導を実践したか。	2.8(+0.1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くつそろえは、定着できるように継続的に見届け確認をする。</li> <li>・児童会と連携し、子どもたちの意識を高める実践に移す。</li> <li>・立ち止まり、目を見てあいさつのできる子供が更に増えるように、認め励ましていく。(学校運営協議会との連携)</li> <li>・生徒指導連絡会を充実させるとともに、情報の共有化を図り、いじめの未然防止に対する意識を高める。また、積極的な認知に努める。</li> </ul>
	・いじめの未然防止・早期対応を実践したか。	3.0(-0.1)	
	・人権を尊重した教育活動を実践したか。	3.1( 0)	
	・児童の自主性・主体性を伸ばす教育活動を実践したか。	2.9( 0)	
健やかな体の育	・体験活動を生かした教育活動を実践したか	3.0(+0.2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一校一運動の縄跳びの目標をもたせ、朝の体力づくりなどに取り組みさせる。</li> <li>・いろいろな食材を偏らず食べる経験を、今後積ませていく。</li> <li>・安全指導の実施方法を工夫・改善</li> </ul>
	・児童の命を守る安全指導を実践したか。	3.3(+0.1)	
	・一校一運動(なわとび)の指導を実践したか。	2.4(+0.2)	
	・朝の体力づくりや昼休みの外遊びを推奨したか。	3.0(+0.2)	
	・むし歯予防や治療に向けた指導を実践したか。	3.2(+0.3)	

成	・「早寝 早起き 朝ごはん」を啓発したか。	3.1( 0)	し、家庭や地域との連携をスムーズにする。 ・う歯等の未治療の家庭には、継続した声掛けを行う。 ・児童の安全を第一に考えながら、生活指導を実施したり、学校行事等実施したりする。
家庭・地域との連携	・学校支援ボランティアや外部講師と連携した教育活動を実践したか。	3.1(+0.1)	・保護者・地域との連携や学校支援ボランティアの活用を進める。 ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を充実させるとともに、地域人材や資源等を生かした学校運営を行い、地域とともにある学校づくりを目指していく。
	・家庭(保護者)と連携した教育活動を実践したか。	2.9( 0)	
	・PTA活動や地域の行事等に関わったり、参加したりしたか。	2.7(+0.2)	
教職員の資質向上	・一校一改善(「業務改善」～「学習する学校を目指して」～)を実践したか。	2.9(+0.1)	・優先順位を意識して仕事に取り組むことで、見通しをもって仕事ができるようにする。 ・業務改善の係と連携を図りながら、働きやすい環境をつくる。 ・教材の共有化を図る。 ・反省を生かした教育課程を編成する。 ・不祥事を他人事としてではなく、自らの課題として受け止め、教職員としての行動を見つめ直すとともに、組織的に原因や問題点を分析し、未然防止対策を講じる。 ・「チームはらら」の一員として、研修を通して、資質や能力の向上に努める。
	・昨年度(または前任校)に比べて業務改善は進んでいるか。	2.9(+0.3)	
	・校内研修に課題意識をもって取り組んだか。	3.1(+0.1)	
	・校務分掌を適切に遂行したり、改善を図ったりしたか。	3.0(+0.1)	
	・子供、保護者、地域住民等から信頼される教職員として、服務規律を遵守したか。	3.4( 0)	

### 3 3学期に向けての取組

- 「確かな学力の育成」については、一人調べ・ペア・グループ・全体といった学習形態を工夫しながら、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に努めるとともに、タブレットの効果的活用を図る。併せて、「まとめの工夫」では、ラスト10分の時間を確実に確保し、学習内容の定着を徹底できるようにする。また、振り返りを通した深い学びを実現することで、自己調整・自己決定できる力を身に付けさせる。
- 「豊かな心の育成」については、あいさつ、くつそろえ、「はさみ運動」、掃除等の指導と見届けに特に力を入れる。また、あいさつについては、児童会や校区コミュニティ協議会と連携を図る。
- 「健やかな体の育成」については、う歯治療率100%を目指して未治療家庭への継続した声掛け、体育的行事や一校一運動などを目標にした体力づくりなどに力を入れる。特に3学期は、縄跳運動を通した、体力の向上に努める。
- 「家庭・地域との連携強化」については、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の充実を図りながら、保護者・地域との連携や学校支援ボランティアの活用を進めていく。
- 「教職員の資質向上」については、日々の授業の中でアップデートを図りたい。そのためにタブレットを活用し、授業でICT活用ができるようにしていく。また、ナビマやロイロノートなどの校内研修に積極的に取り組む。